



いしわら

12月号

令和3年11月30日

調布市立石原小学校

校長 江原 幸一

<http://www.chofu-schools.jp/isiwara-sho/>

「問う力」・「考える力」・「対話する力」

副校長 三瓶 邦吉

「学校」ってすばらしいところだと思いませんか。私は、そう思います。一緒に学ぶ仲間がいます。問題を一緒に考え、話し合い、考えを練り上げたりします。また、友だちと協力して活動し様々なものをつくり上げたりします。このような学校生活のプロセスそのものが最高に貴い宝物ではないでしょうか。

では、学校の価値を高める要素とは何でしょうか。私は、「問う力」と「考える力」、「対話する力」の3つを挙げたいと思います。問いを発することにより、思考や対話が生まれ、新たな世界観や価値観を広げることができるからです。

本校では、この2年間、特別活動の学級活動を校内研究に取り上げ、子どもたちの話し合い活動の充実を図ってきました。子どもたちは、話し合いの進め方や合意形成、意思決定の仕方を少しずつ身に付けてきています。学校生活の課題について、どうしたらよいのだろうかとの問いをもち、考えを出し合い、話し合うことにより、よりよいクラスや人間関係を築いていくための問題発見や解決のプロセスを学んでいます。これは、キャリア教育にもつながり、また、民主主義の礎となる見方、考え方を養っていく役割もっていると確信します。

子どもたちの主体性が発揮されている学習に、2年生の「まちたんけん」(生活科)があります。1学期に学区域の中を探検したことから、2学期は、「お店の中を見てみたい」「もっと詳しく知り

たい」との問いが願いとなり、どんな活動にしたいか自分たちで計画を練りました。訪ねてみたいお店等に承諾をもらい、実際にインタビューをしたり見学をしたりする活動を実施しました。子どもたちが訪問させていただいたお店や施設は、お米屋さん、お寿司屋さん、パン屋さん、図書館、お肉屋さん、おそば屋さん、お菓子屋さん等です。ご協力に感謝いたします。子どもたちにとって、より身近な存在となったことは間違いありません。見学後、お店等の方々に発表会に来ていただきたいと招待状を書き、タブレットでスライドにしたり報告書としてまとめたりしました。

2年生の子どもたちのすばらしさは、学習を受身で捉えず、私たちの身の回りにお店があるけど、「お店ってどうなっているのだろう」「どのように働いているのだろう」と「問い」もち、自分たちの思いや願いを活動につなげようと知恵をしぼって考えていったことにあります。また、訪問するグループを分担し、責任をもって他の友だちに伝えるために聞いたりまとめたりしたことです。さらには、お店等の方々との関わりを大切にするために、招待状、発表会等において対話を重視したことです。

子どもたちは、身近な学区の方々との充実した関わりを通して、地域のことが一層好きになり、地域のよさを探求し続ける主体者に育ってきているのが嬉しい限りです。